

**議 題 2**

報道機関 各位

記者発表資料

平成26年 5月 8日 (木)

問い合わせ先：文化財保護課

担当：内田・中村

電話：829-1724

内線：4136

これまでの例を 500 年以上遡る搔き傷のあるウルシの木が出土
～わが国最古の縄文時代中期と判明～

中央区大戸にある南鴻沼（みなみこうぬま）遺跡から、ウルシ搔きの跡が残るウルシの木が出土しました。年代測定などによって、縄文時代中期のものと判明し、ウルシの樹液採取を実証する資料としては、これまで最古の縄文時代後期の例を 500 年以上も遡ることが確認されました。また、発掘調査では、同時期の漆器も出土しており、ウルシの木の栽培から樹液の採取、製品化に至る一連のウルシ利用を一つの遺跡で明らかにできる極めて貴重な成果となりました。

(1) 出土したウルシの木について

このウルシの木は、高台寄りの低地部分から出土しました。残存する長さ 113cm、太さ 2.5～3.5cm です。表面に、10cm から 15cm の間隔で、木を一周する様に、合計 9 本の筋状の搔き傷が確認できました。

放射性炭素を用いた年代測定の結果、今から 4903 年～4707 年前のものであることが判明しました。この測定結果と出土した土層などから、ウルシの木は、縄文時代中期後半のものになります。

(2) 南鴻沼遺跡について

南鴻沼遺跡は、さいたま市役所から西へ約 750m の中央区大戸地内に所在する低湿地遺跡で、平成 23 年 10 月から平成 25 年 3 月まで発掘調査を行いました。調査の結果、縄文時代の水辺の利用跡、また丸木舟や漆器類など、低湿地遺跡の特徴的な遺構や遺物が出土しました。

(3) 学識経験者のコメント

元 文化庁記念物課 埋蔵文化財部門 主任文化財調査官
岡村 道雄 氏

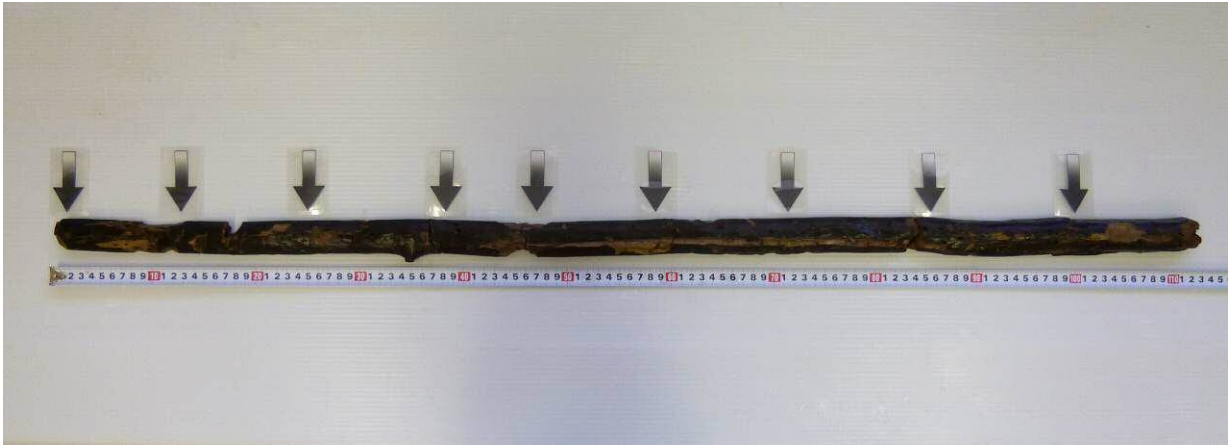
日本の漆工は、起源も約 9,000 年前に遡る世界最古の文化であり、世界に誇れる美術工芸文化である。ウルシを育てて、横に巡るように木に搔き傷をつけて樹液（漆）を取る方法は、古代まで続いた日本的な方法だったらしい。この搔き取りの具体例は、これまで縄文時代後期の東京都東村山市下宅部（しもやけべ）遺跡の例が最古とされていたが、南鴻沼遺跡例は、さらに一段古い縄文時代中期・約 4,900 年前まで遡る事を明らかにした。その意義は大きい。

なお、これまで全国で「漆搔き傷が認められたウルシの木」の例は、僅かに前述した東京都東村山市下宅部遺跡（今から 4,200～3,600 年前）、弥生前期の鳥取県松江市西川遺跡、古墳時代の埼玉県東松山市城敷（しろしき）遺跡、古代では埼玉県吉見町西吉見条里遺跡と石川県指江（さしえ）B 遺跡の例が、知られるのみである。

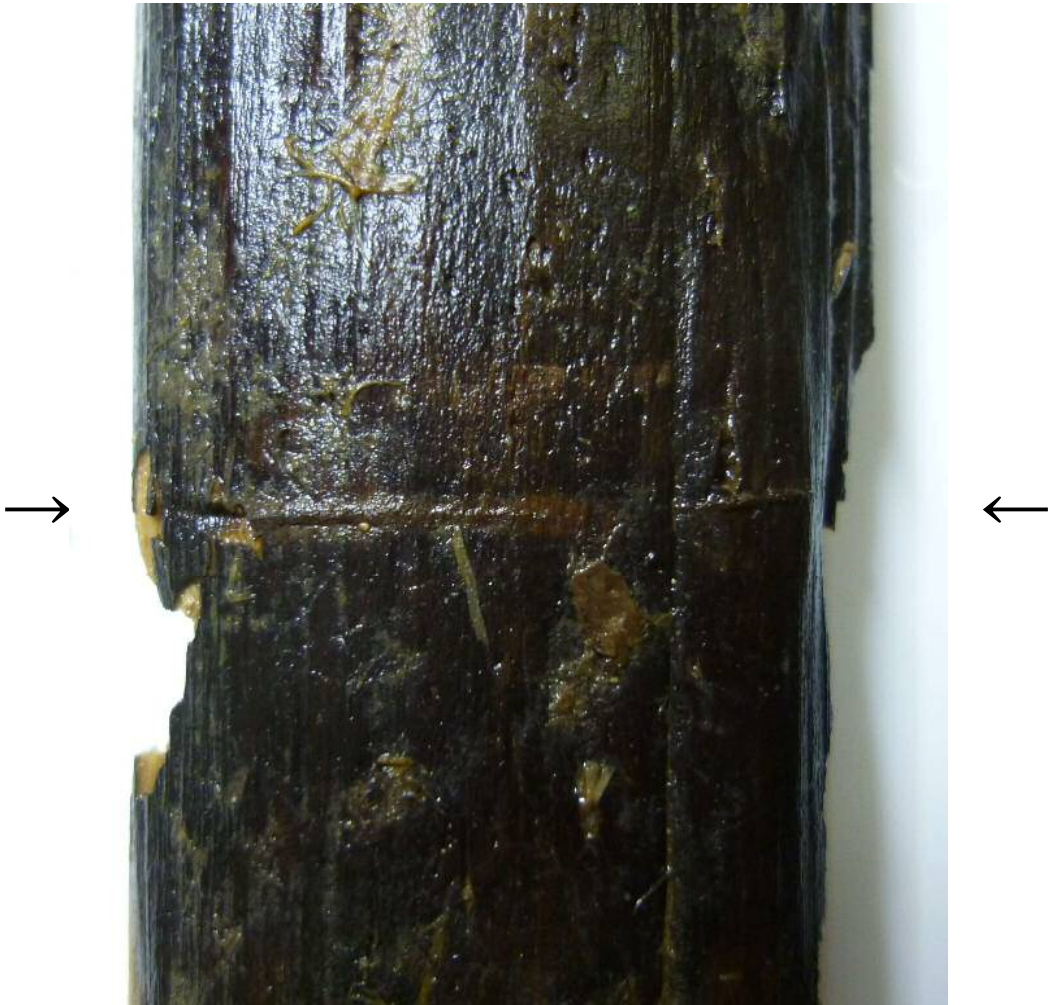
(4) 「南鴻沼遺跡速報展」の開催について

今回の速報展では、出土したウルシの木を始め、これまでに保存処理や接合を終えた縄文時代中期～晩期の「飾り弓」、「櫛」「木製容器」などを、下記の内容でいち早く市民の皆さんに一般公開いたします。

- ① 展示期間 平成 26 年 5 月 10 日（土）～ 5 月 18 日（日）
- ② 展示会場 与野文化財資料室（さいたま市中央区下落合 6 丁目 10 番 13 号）
- ③ 時 間 午前 9：00 ～ 午後 4：00（休館日無し）
- ④ 主な展示 1) 搔き傷のあるウルシの木 1 本
2) 櫛 2 点
3) 飾り弓 1 点
4) 木製容器 6 点 他写真パネルなど
- ⑤ みどころ 搔き傷のあるウルシの木の实物や、保存処理が終了した色鮮やかな漆塗りの飾り弓、櫛、木製容器の状態も間近にご覧いただけます。
- ⑥ 展示の説明 5 月 10 日（土）、11 日（日）、17 日（土）、18 日（日）
①午前 10 時 ②午後 2 時～ 各回 30 分程度
- ⑦ その他 この速報展の終了後、さいたま市立博物館（大宮区高鼻町）で 6 月 3 日（火）から 6 月 8 日（日）の予定で特別公開します。



搔き傷が確認されたウルシの木（矢印部分に搔き傷）



搔き傷部分の拡大（矢印）



飾り弓(部分)



櫛